

門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会（二次審査）会議録

会議名称	門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会（二次審査）
開催日時	平成30年2月14日（水）午後2時00分～午後3時15分
開催場所	門真市役所本館2階 大会議室
出席者	（委員長）久保委員長 （副委員長）満永副委員長 （委員）畑山委員、河合委員、寺西委員【出席人数5人／全5人中】 （事務局）水野次長、三村学校教育課長、牧菌社会教育課長、清水社会教育課長補佐、松本社会教育課主査、山下社会教育課主査
議題 （内容）	1. 二次審査の方法について 2. 二次審査（プレゼンテーション審査） 3. 審査結果報告 4. 総合評価
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第6条第5号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）教育部 社会教育課 （電話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、議事次第でございます。

1 ページ、資料1「二次審査予定表」でございます。

2 ページ、資料2「二次審査評価基準」でございます。

3 ページ、資料3「一次審査結果」でございます。

別紙、「二次審査質問（案）」でございます。

最後に、審査用紙が2枚でございます。

お手元のない資料はございませんでしょうか。

本日、委員5人中5人が出席されておりますので、この委員会は成立していることを報告いたします。それでは、この後の議事運営を委員長にお願いしたいと存じます。

委員長よろしくお願いたします。

<久保委員長>

それでは、門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会を開会します。

それでは、二次審査の方法などについて、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

それでは、二次審査の方法などについて事務局よりご説明いたします。

1 ページ、資料1「二次審査予定表」をご覧ください。

本日は、プレゼンテーション審査である二次審査を行っていただいた後、一次審査と二次審査を合わせた得点上位者を委託事業候補者に決定いたします。

二次審査は申請順に株式会社アーク・スリー・インターナショナル、株式会社近畿日本ツーリスト関西の順でプレゼンテーション審査を行います。次に、2 ページ、資料2「二次審査評価基準」をご覧ください。プレゼンテーション審査では、申請団体から門真市海外派遣研修業務委託に関するプレゼンテーションを 20 分以内で行っていただきます。その後、概ね 20 分間を質疑応答の時間といたします。

次に、別紙、「二次審査質問（案）」をご覧ください。一次審査でいただいた意見を参考に質問（案）として整理しておりますので、参考資料としてご活用ください。

また、配点につきましては、2 ページ、資料2「二次審査評価基準」のとおりとし、右の評価覧のAからEまでのアルファベットに○を付けていただきますようお願いいたします。一人当たり 100 点満点とし、選定委員の合計点を委員数で割ります。

全ての団体のプレゼンテーション審査の後、意見交換の時間を 15 分程度お取りします。その後、ご記入いただいた審査用紙を回収し、得点の集計を行うため、休憩をお取りいただきます。集計結果が出ましたら、一次審査の得点と二次審査の得点の合計を発表いたします。

なお、一次審査の得点は、3 ページ、資料3「一次審査結果」のとおりです。

また、本市では、団体の役員等に本市の市長または市議会議員が加わっていないか、団体の構成員に暴力団員または暴力団員との密接な関係を有する者はいないかという2点について事務局より審査の前に確認させていただきますので、あらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

以上で、二次審査の方法などについて説明を終わります。

<久保委員長>

ただいま、事務局より二次審査の方法などについて説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

それでは、これからプレゼンテーション審査に移らせていただきますので、申請団

体を入室させていただきます。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル 入室》

<事務局>

それでは審査の前に、2点確認をさせていただきます。御社の役員等に本市の市長または市議会議員が加わっていませんか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

おりません。

<事務局>

次に、御社の構成員に暴力団員または暴力団員と密接な関係を有する者はいませんか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

おりません。

<事務局>

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに20分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了1分前に合図をいたします。20分後にベルがなりましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、御社が委託事業者として海外派遣研修業務を請け負う際に遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。それでは、プレゼンテーションを始めてください。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル プレゼンテーション》

<久保委員長>

ありがとうございました。それでは、質疑応答に移ります。

委員の皆様、質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

<満永委員>

中学生の派遣研修で、御社が一番大事だと考えているところはどこでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

昨今、少子化が叫ばれておりますが、中学の時にこうした貴重な海外経験をしていただくことで、広い視野で世の中を見ていく力がつくのではないかとということと、やはり、ありきたりな言葉なんです、オーストラリアという異文化、オーストラリアはそもそもが多民族国家ですので、色々なルーツを持った方々が国籍をとって集まっている国ですから、色んな違い、習慣・文化を体験してもらって、「オーストラリアってこんななんだ。日本とは違うな」、「同じような料理でも味付けは全然違うな」と感じてもらう。それと同時に、日本の良いところも再認識して欲しいと思います。「日本ってこんなにも清潔で綺麗なんだ」と、中学生でも感じて頂けると思います。文化の違いを感じるということと、日本の良さを再認識していただくことで、日本人の誇りをもって世界へはばたいて行っていただける基礎になればと考えております。そういうところが大事だと思います。

<満永委員>

もう一ついいですか。今回の実施要項を説明していただきましたが、先ほどの言葉をからめながらで良いのですが、一番力点を置かれた部分はどこになりますか？今回の企画で。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

実は私も、中身は昨年度とほぼ同じなので「なぜ変えないのか」と前任者から引き継ぎの際に聞きました。一昨年くらいから中身は変わっていないのですが、やはり中身がかなりよかったというのが第一番で、変えずに成熟させていただく形にしました。

ましてや、今年研修に参加した子が今年もまた参加するということはまずありませんので、今年参加される方にとっては初めてですから、あえて変えずにアデレードの良いところ、オーストラリアの良いところを、体験していただくということを主眼において、プログラムはいじっていません。

意識していることとしましたら、異文化交流ですとか小学校の体験とか、バディです。同世代の方との共同作業をすることによって心のケアもできるのかなと思います。

以上、総合的に見て良いプログラムになっていると思います。

<満永委員>

ありがとうございます。

<畑山委員>

よろしいですか。

昨年に比べて、中身は変わっていないと思うのですが、旅行代金の方が高くなっているなと思います。その理由を教えてくださいたいのと、それからもう一つ添乗員費用が内訳にあるのですが、生徒、引率者に比べて非常に高いんですが、この高くなっている理由はどのようになっているのでしょうか？

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

旅行代金の上がった大きな部分は、昨年度に比べまして、航空運賃が上がったことです。昨年度までは設定されていなかった燃油サーチャージが復活する見込みですので、その分が高くなっている大きな理由となっております。それから添乗員費用なんですが、例年でいえば添乗員はホームステイですが、協議上ホテルで宿泊となった際、その分コストが割高になりますので、前もって多めに計上しております。

ですので、料金としましては、最終的な代金の請求としては下がるということもあり得ます。あとで値上げというのはできないので、今はマキシマムの金額を提示させていただいているということになります。

<畑山委員>

実費精算されるということですね？

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

そうですね。ホテルに宿泊せずに、ホームステイに、ということになりますとかなり差額が出ますので、そのあたりは後日、差額が発生した場合には精算させていただきます。

<久保委員長>

ほかにございますでしょうか。

<河合委員>

今回、提示していただいているように、シンガポール航空を利用されるということ、また貸し切りバスを利用すること、それぞれ、交通機関を選ぶのになかなかご苦労されているのではないかと思います。この辺の会社を選んでいくところに何かお考えはありますか？

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

バス会社に関しましては、昨今、海外からのお客様も増えまして、なかなかバスを適正な価格でおさえるというのは厳しいという状況なのですが、その中でもやはり、

どんなバス会社でもいいのかということ決してそうではないと思いますので、サイズですとか料金、あとは事故を起こしている、起こしていないそういう点を踏まえたうえで、国内の業者ですと、検索をすればリアルな情報が出てきますから、選定して委託しております。もしかしたら、より良いバス会社がより安く予約できましたらバス会社の変更ということも十分あり得ます。それから航空会社に関しましては、昨年も担当者が申しあげたかもしれませんが、アデレードまでは日本のどの空港からも直行便がございませんので、どこか経由していくということになります。ではなぜシンガポール航空を選んだかということになりますと、いろいろ言われる方はあるかと思うのですが、機内サービスがいいですよとか発着時間がいいですよとか、もちろんそういう理由もありますが私がオーストラリアに色々な学生さんを運んだ過去の経験値で言いますと、シンガポールというところはですねこの時期、台風が来ないんですね。これがよく似ているキャセイパシフィック航空を利用した場合の経由地、香港ですとこの時期必ずと言っていいほど、台風が来て、台風のせいで香港で一泊くってしまうということがありますこの二、三年間。しかし、シンガポールは、なぜかあそこは台風が通らないという統計が出ておりますので、そういうこともふまえて行程に航空会社の事情、自然災害の事情もふまえて、私はシンガポール航空を選んでおります。もちろん機内サービスがアジアの航空会社の中ではずば抜けて良いとか、空港の利便性が高いとかあるんですがやはりそこですね。もちろん成田まで行けばカンタス航空がシドニーまで直行便で飛んでいるのですが大阪から成田の移動で台風にあたりしめすと飛べないということも夏場の時期ですので十分考えられます。ですので、そういうことがないシンガポールで経由して安全にアデレードへ、ということのを第一に考えました。

<久保委員長>

ありがとうございました。

<寺西委員>

ホームステイ先で研修生が困ったりした場合の対応とホストと合わずにホストファミリーを変えたいという申し出などが出た場合、これはどう対応されるのでしょうか？

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

当然そういう場合はあると思います。中学生はいろいろ多感な世代ですので向こう

も生身の人間、こちらも生身の人間、もちろん人と人ですので合う合わないというのは必ず出てくると思います。それをなるべく未然に防ぐ方法としてはアプリケーションフォームにいろいろご希望を書いてもらったり、アレルギーがどうか、動物が好きとか嫌いとか、小さい子どもが好きとか嫌いとかいろいろあると思いますがそれをふまえてあとは、今年もそうだったとは思いますがスナップ写真を提供いただいてそれを総合して見ていただいて現地のファミリーとのマッチングをまずプランニングしていくということになります。それでもやはり mismatch といいますか、合わないというのもあると思います。やはりそれを我慢しろというのは、中学生には酷ですね。まあ、いろいろあると思います。お料理が上手なホストマザーもいれば、あまり上手ではない家庭もありますし、きれい好きなお母さんもいれば、きれい好きでないお母さんもいる。優しいお父さんもいれば、見た目が恐そうなお父さんもいる。色々あると思います。その中で一週間そのお家で過ごしますので、もし合わなければ、それは本人からはなかなか言い出しにくいことだと思います。今年予定している添乗員と話をしてきた中では、まず朝一に声をかけさせてもらおうと。今回の場合、中学生なのでホストファミリーが必ず学校まで送られます。あと迎えに来て下さって、自分の家まで行きますので、その時の状態ですね、元気がないですとか、顔色や、雰囲気を見させていただいて声をかける。あとホストファミリーにも同じように添乗員が「何かこの子の様子で変わったところはありませんか？」と声をかけます。ホストファミリー側がこの子はちょっと無理だっていうこともありますし、中学生とホストファミリーの間で、無理なところがあれば、意見を聞いて、引率の先生や職員の方がいらっしゃると思いますので、皆さんで協議をして、出来る限り本人を交えて、本人の意思を尊重したうえでホストファミリーを変えるということは十分あります。変えられないということは全くございません。ホストファミリーはストック、という言葉が良いのかはわかりませんが、9家庭しかホストファミリーがないというわけではございません。ほかにも十分、用意の家庭もございますので、その中から良い家庭を選んでいただくことになります。やはり家庭環境、家族構成、様々ですので、合う合わないがあると思います。ですので、そこは慎重に、現地で対応させていただきます。ましてやそれほど期間が長くありませんので、半分我慢して、残りの半分、ということになると快適に過ごしたのが半分だけということになってしまいますので、出来るだけそういうことは早い段階で見つけて対応していくのが重要と考えております。そういった意味

では弊社の添乗する社員も20年以上勤務している女性ベテラン社員でございます。某大学の中にある店舗で働いておりますが、彼女は「仕事だから」という気持ちで添乗しているわけではございません。やはりマインドとして中学生の皆さんのお役に立ちたいという気持ちで参りますので「仕事だから行く」という添乗員とは違うと自負しております。やはりプライドを持って、中学生の未来のためにお役に立てるよという気持ちで行きます。彼女も添乗で行ったからといって彼女がプラスの評価を受けるわけでもなんでもなく、「行きたいから行く」というマインドで行きますので、そういう意味で、手前味噌にはなりますがしっかりした対応をすることができるのではないかなと思います。

<久保委員長>

ありがとうございます。では私からいくつかありますので、一つずつお聞きします。

まずこれは質問ではないのですが、頂きました企画書のところで重箱の隅をつつくようで申し訳ないのですが、様式の3の3ページの業務実績の所、こちら改行ミスではないかと思えます。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

これは、はい。単純なミスでお恥ずかしい限りです。

<久保委員長>

公式文書ですので、きちんと注意してお願いいたします。本題なんです、見積書の企画書1ページ目なんです、そこから2ページ目にかけてなんです、先ほどお話になった燃油サーチャージの件ですが、本来ツアー等ですと燃油サーチャージというものが別途書かれているんですが、これは記載がないんですけれども、燃油サーチャージはどうなっているのでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

この部分に関しましては、個別には出しておりませんが含む形にしております。昨今、旅行なんかでも燃油サーチャージ込みたいな打ちだし方を国交省から指導されておりますので、特に分けずに料金を出しております。

<久保委員長>

分けずにこの中に出してらっしゃるということは、先ほど一番MAXで出しておられると仰ってございましたけども、燃油サーチャージが、MAXということはこの中に入っている金額で想定している金額よりも上がった場合であっても、とらないという

ことでよろしいですね。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

こういうふうに出してしまっていますので、上がった場合でもそれ以上はいただくことはできません。

<久保委員長>

できないですね。逆に下がった場合は返していただけるのでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

下がった場合はお返ししようと考えております。

<久保委員長>

下がった場合、それはいつどの時点での燃油サーチャージかっていうことがわからないと返してもらう金額がこちらはわからないんですけれども。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

見込みとしましては、こちらの団体様の航空券発券業務をすると思うんですが、7月になってからになりますので、その時期の燃油サーチャージの額は、6月になると確定いたしますので、その時点できっちりと「燃油サーチャージで想定していた額が無くなりましたので、この金額はこれだけ下がりました」ということをご提示したいと思います。現時点では4月、5月の燃油サーチャージがいくらかということは判明しております。

<久保委員長>

4月、5月の金額でこちらは見積りは作られているということですか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。これ以上の金額にはならないという解釈をしての見込でございます。

<久保委員長>

なるほど。4月、5月の金額の想定で、この中に組み入れていて、6月の時点で下がってれば返金していただけると。上がっていた場合は、とらないということでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。問題ありません。

<久保委員長>

はい。わかりました。次にですね、色々異文化を学ぶということで、野生の動物園

の保護地区や博物館の見学というものが毎年入っているんですが、先ほどから「中学生だから」と強調していただいているのですが見学というものは大人が見ても楽しいでしょうし、中学生が見ても大学生が見ても楽しいとは思いますが、そのあたりで中学生がそのことを見て、楽しいあるいは、理解できる、例えば先住民のことを理解するとかいうことで、大人を連れて行くのとは違う工夫されていますでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

いくつかのグループに分かれると思いますので、現地では添乗員が9人にべったりというわけにはいかないんですが、行く施設は分かっておりますので、事前学習で資料とかパンフレットを用意して、ある程度事前に勉強していただいて、現地で「あっ、こうだな」という形で理解していただければいいと思っています。現地で具体的にってもらい方の工夫というのは限界がございますので。ただ、添乗員もほったらかしということはありません。やはり一人一人その状況でもちゃんと楽しんでいるかなとか逐一確認してまいりますので、わからないのでしたら、添乗員に聞いていただいたら、英語の文章を日本語にしてあげるとか「これはこういうことなんだよ」とコミュニケーションをしながらの学習が可能かと思います。

<久保委員長>

自由散策みたいな形になるということですね。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

そうなると思います。

<久保委員長>

わかりました。もう一つなんですが、これまで何度か担当していただいたと思うんですが、昨年度の反省点とそれから今年の改善点についてお話し下さい。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

はい。昨年度から中身に関しては、ホームステイ先の変更等があったと伺っていますがあまり問題はなかった、中身自体に大きな問題はなかったと思います。しかし、付加的な問題で、「お持ちいただいた携帯電話が使えなかった」ということを聞いていますので、それがないようにですね、あらかじめ事前確認をさせていただきます。おそらく業者から直接空港で受け取るケースが多いと思うので、あらかじめ動作確認したうえでアデレードで使えるものかどうかを確認する形にするか、もしくは、見積書には4、5台と書かせて頂いておりますが、現地で調達する、ということも検討して

おります。持って行って使えないということでは、何の意味もありませんので。

<久保委員長>

そうですね。わかりました。ちょっとこちらの方で報告を受けた内容で、ホストファミリーで一番最初に出会うときに来られなかった方がいると。それを強く問題視するという意味ではなく、客観的に事実としてお話ししているんですが、来られなかったということで結局ほかのホームステイ先が引きうけて泊めてもらったというのがあるのですけども。先ほどホームステイに「細心の注意を払って」というふうなお話がありましたがこのことについてはどのようにお考えでしょうか。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

会社であっても個人的であってもあってはならないことだと思います。その日から受け入れると決まっていたにも関わらず、どこかご出張に出られていたとか、ご旅行に行かれていて、何かの都合でその日帰ってこれず当日迎えにいけなかったということ添乗に行ったものに聞いておりますが、これは日本サイドからも現地に対して厳しく改善してほしい点としてお願いしております。百歩譲ったとしてそれこそ迎えに行けないという場合においてもその家庭からコーディネーターに連絡をいただいて、コーディネーターからこちらに連絡を頂いて、今回の迎えにいけないんです、となれば、「〇〇君のご家庭は無理だから他のホームステイ先に今日一日お願いいたします」、ということと言えるような状態にしておかないといけないと考えております。そうでないと、ご本人もそうですし、日本におられるご本人のご家族にもその連絡が行くと思うんですが、それを聞いて日本におられるご家族の方がどれほど不安になられるか。それを思うと想像を絶します。「自分の子だけが迎えに来られていない」というのはあり得ないと思いますので、そこは問題だと思っております。絶対はないと思うんですけど、そうなる場合は必ずご連絡いただくようにいたします。おそらく去年もそのようにしていたとは思いますが、たまたまそういう意識が低いホストファミリーにエントリーされていたのだと思います。

<久保委員長>

わかりました。あともう一つお聞きしたいのは日本の方のアークスリーさんの方へご連絡した際に全然つながらないと、添乗員さんがイライラされていた、という風にかがっております。緊急連絡ということで連絡網いただいておりますけども、連絡がつかないと話にならない。この連絡網は意味をなさないので、常に24時間受け入れ

態勢を日本の方でもしていただいてもおかまいと意味がないと思うので、そのへんの所をきちっとしていただいて、改善点として考えて頂きたいと思います。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

そういうことも含めまして、時差のことも書いておりますけども日本とアデレードは時差が少ないので、なにかがあった時にほぼリアルタイムで対応できるというのが、オーストラリアで海外派遣するという中で最大のメリットの一つだと思いますので、そこで連絡がつかないというのはあり得ないので、今回いただいた意見を受けまして会社としてもしっかりと検討していきたいと思います。私といたしましても、携帯を会社から支給されておりますので、24時間連絡がとれる態勢をとっていますので、私と、今回行くであろう添乗員とのコミュニケーションを含めてしっかり改善を図ろうと思います。

<久保委員長>

わかりました。他の委員さんはなにかご質問はございませんか。

よろしいでしょうか。

それでは、これで審査を終了します。審査結果につきましては、2月末頃、通知させていただきます。どうもありがとうございました。

<株式会社アーク・スリー・インターナショナル>

貴重な意見ありがとうございました。

失礼いたします。

《株式会社アーク・スリー・インターナショナル 退室》

<事務局>

委員長ここで、一点ご報告させていただきます。先ほど株式会社近畿日本ツーリスト関西の方から連絡がありまして、予定の集合時刻14時40分に来れないということでした。実際、現在、予定の14時40分を過ぎて、まだ到着をしておりません。事前に事務局は14時40分までに到着しない場合は二次審査を辞退したものとみなすという通知をしておりますので、その旨を、担当の方にお電話でお話しさせていただいたところ「ご辞退させていただきます」という答えをいただきました。この件につきましては会社の方にも連絡をさせていただきました。会社の方も「遅れまして申し訳ご

ございません。辞退の旨、了承いたしました」という回答を承っております。報告は以上でございます。

<久保委員長>

かしこまりました。

<畑山委員>

遅れる理由は何だったのでしょうか？

<事務局>

空港の方でトラブルがあったので、その対応をしております、大阪市内の方から車で向かっておりますけども、とてもではないですけども、集合時間には間に合わないとのことでした。この件に関しては、事前に集合時間に来られない場合は、二次審査を辞退したものとみなしますと通知しております。

<久保委員長>

辞退させていただきますとお伺いしましたので、向こうももうこちらへは来ないということですね。かしこまりました。

それでは、今から意見交換の時間を取りたいと思います。何かご意見があればお願いします。

特に意見交換が無ければ審査の方に入らせてもらってよろしいでしょうか。それでは審査の方よろしくお願いします。

<事務局>

現在時間14時55分ですので、15分後の15時10分に回収したいと考えております。

<久保委員長>

15時10分に回収してよろしいですか。

<選定委員>

異議なし

<久保委員長>

それでは、事務局は審査用紙を回収し、集計を始めてください。これより集計結果が出るまで休憩とします。

《休憩及び集計》

<久保委員長>

それでは委員会を再開します。まず、集計結果について事務局から報告をお願いします。

<事務局>

それでは、集計結果について報告します。集計結果は一次審査と二次審査を合計した得点をご報告します。

第1位は、株式会社アーク・スリー・インターナショナルで、155.90点です。

第2位は、株式会社近畿日本ツーリスト関西で、81.40点です。

以上で、集計結果の報告を終わります。

<久保委員長>

それでは、一次審査と二次審査の合計得点により、委託事業候補者の順位を、第1位株式会社アーク・スリー・インターナショナル、第2位株式会社近畿日本ツーリスト関西と決定したいと思います。

株式会社近畿日本ツーリスト関西は総合得点が総合配点合計の60%に満たず、不採用となるため平成30年度門真市中学生海外派遣研修事業委託事業候補者は株式会社アーク・スリー・インターナショナルとします。

最後に、今後のことについて事務局より説明をお願いします。

<事務局>

それでは、今後のことについてご説明いたします。まず、本日の総合評価の結果を申請団体に対して、選定または不選定の通知を郵送により発送します。併せて、市ホームページにて選定結果を公表します。委員の皆様におかれましては、ホームページに掲載される2月末ごろまでは審査の結果について口外されませんようお願いいたします。

次に、会議録の公開については、委託事業候補者が公開された後にいたします。それまでにこちらで作成した会議録をお渡ししますので、ご発言の個所の確認をお願いいたします。

<久保委員長>

ただいま、事務局より今後のことなどについて説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

以上をもちまして、門真市中学生海外派遣研修事業委託事業者選定委員会を閉会します。皆様お疲れ様です。ありがとうございました。